

昨日で令和3年度が実質的に終了した。4月からの新年度のことを視野に入れながらも、とりあえず一息である。

毎朝、生徒が登校してくる時間帯に合わせて学校の入り口に立っていた。正面には吾妻山がそびえている。校長室に戻ると、吾妻山は見えなくなる。代わりに南側の窓からは、壮麗な安達太良山の雄姿が見える。この山は、毎日見ても飽きない。見える景色が毎日違う。

安達太良山を眺めるようになって、まもなく1年である。この1年を振り返ってみる。すると3つの「S」が浮かんできた。

一つめのSは「スピード」である。野田中学校の先生方の対応は早い。すぐに動く。もたもたしていない。そうできるのは、何かしらの判断が伴っているからである。経験豊富な先生方がそろっていることもあるだろう。学年などの組織で動いている。これは「初期対応」のSでもある。

二つめのSは「誠意」である。いくら早く対応したとしても、そこに誠意がなければうまくはいかない。誠意とはスピードでもある。要は心の問題である。相手の側になってどのくらい考えられるかである。相手意識をもつことができるかである。

三つめのSは「誠実」である。誠実さは、言葉や態度にも出る。教員は、人を相手に仕事をしている。誠実さがなければうまくはいかない。これは、大人に対してだけではない。生徒に対しても同じである。

これら3つのSうち、一つでも欠ければ、うまくいかないことが多い。もちろん、すべてがうまくいったとは思っていない。反省すべき点がいくつもある。

ある先生が、「3つのM」と言っていた。無言移動、無言整列、無言清掃である。なるほどと思った。本校のスローガンである「凡事徹底」の凡事にあたるものである。この影響もあってか、3つのSが浮かんだ。

結論づけると、気持ちの問題である。すべて心に左右される。今年度の学校経営3か条の一つを「教育は人の心が決める」とした。これは間違っていないかと思う。気持ちや心がスピードを決め、相手に誠意を伝え、誠実さを伴った言動となる。

ポイントとなるのは、やはり相手意識ではなかろうか。生徒や保護者の立場になって考えられるかどうかである。きっと、このことを“寄り添う”と言っているのかもしれない。そう容易いことではない。

例えば、勉強で苦しんでいる生徒の気持ちを、勉強で苦労したことがない教員が、どのくらいわかるだろうか。大切なことは、わかろうとするかどうかである。忘れ物をしたことがないような教員が、忘れ物をしてしまう生徒の気持ちを理解しようとするかどうかである。「忘れ物をしないように」などと、教員でなくても言えることを言っていたのでは、問題は解決しない。

あと1週間で新年度、令和4年度がスタートする。毎年のことながら春休みは短い。一息ついていない場合ではない。急いで新年度の「学校経営〇か条」を考えなくてはならない。それはきっと安達太良山が教えてくれる。